

ろうさい病院つうしん

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6 TEL: 052-652-5511
https://www.chubuh.johas.go.jp/ FAX: 052-653-3533

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

事務局長着任のご挨拶



事務局長 秋山 幸一

みなさま、こんにちは。この4月に事務局長に着任いたしました秋山幸一と申します。これまでいくつかの病院で様々な業務に携わってまいりましたが、事務局長としての経験はなにぶん初めてのことであり、多少の不安と戸惑いを感じております。日々、職務に精励し、職責を果たせるよう努力してまいりますので宜しくお願い申し上げます。

ご案内のとおり、当院は地域の人々の健康を守り、患者さんの苦痛を癒すために、深い愛情と大きな責任を持って、最善を尽くすよう、「納得・安心・そして未来へ」を理念として、また、基本方針の中に「地域社会との密な連携と信頼される病院の構築」を掲げ、医療の提供と健康の増進、福祉の向上に努めております。とりわけ、地域とともに歩む病院として、今日までその役割を果たすことができましたのも、地域の医療機関の先生方の多大なご支援、ご協力の賜物と心から感謝を申し上げます。これからも、地域におきまして重要な役割を果たされている皆さま方と機能を分担し合い、連携を一層強めながら、地域医療支援病院としての役割・機能を果たしてまいります所存であります。

現下、病院や医療をめぐる環境は厳しさを増しつつありますが、今後とも当院はその理念・基本方針に相応しい質の高い医療の提供に努め、地域の皆さまに信頼され、期待される病院として、一層その機能を果たしていかなければならないと私なりに感じております。皆さま方から特段のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

薬剤部長着任のご挨拶

薬剤部長 中田 吉則

4月1日付で、薬剤部長に着任しました中田吉則です。よろしくお願いいたします
ます。



中部ろうさい病院では、平成元年より30年間仕事をさせていただき、管理職として関東労災、新潟労災で5年間、規模や環境は大きく異なる施設でしたが、沢山の経験を積み、再び中部ろうさい病院で勤務をさせていただくことになりました。

薬剤師は、いま薬局の中だけでなく病棟や外来で医療チームの一員として幅広い仕事をさせていただいています。仕事の内容も調剤、抗がん剤調製、病棟や化学療法室での患者指導や副作用確認、麻薬や抗がん剤などのハイリスク薬や高額薬を含む医薬品管理、医薬品の情報提供、治験薬管理など多岐にわたっています。また医師の働き方改革におけるタスク・シフト/シェアへの薬剤師への期待も高っています。

仕事は難しく煩雑になっていますが、私がいなかった5年の間に、薬剤部のスタッフも大きく様変わりし職場も活性化されているようです。モチベーションの高い薬剤部のスタッフとともに薬剤部そして病院を盛り上げていきたいと考えています。今後ともみなさんのご支援、よろしくお願いいたします。



中央検査部長就任のご挨拶

中央検査部長 豊島 由加里

皆さんこんにちは。4月1日づけで中央検査部長に着任しました豊島由加里です。



生まれは三重県の田舎で、大学時代を愛知県で過ごし、三重県（県職員）へ就職。

そこから結婚して愛媛へ行き、愛媛労災から単身赴任で岡山県の吉備リハへ、そ

して愛知県に帰ってきました。愛知とか愛媛とか、愛に縁があるな～となんだか嬉しく思ったりしています。

さて、医療をとりまく環境が大きく変わり中央検査部にも変動の波が押し寄せてきています。私は、スタッフ一人ひとりが主体性を持って動くことができ、それぞれの強みを存分に発揮できる働きやすい職場環境を整えることが最大の使命だと考えています。それがしなやかに変容できるチーム作りをする上で欠かせないことだと思うからです。当院中央検査部は、外来採血業務をはじめ、血液検査、尿検査、輸血検査、病理検査といった検体検査と、心電図、肺機能、超音波検査等の生理検査を実施しています。精度管理の徹底とスキルアップを図り、検査精度を保証する日本臨床検査技師会の品質保証施設認証を獲得しています。ここでの仕事はまだ数日ですが、フットワークが軽く自信を持って堂々と仕事をしているスタッフ達を本当に頼もしいと感じています。そんなスタッフ達と共に成長し、今後も安心と信頼の検査結果をお届けするとともに、他職種の方々とも連携して少しでもお役に立てるよう精進して参りたいと思っていますのでどうぞよろしく願いいたします。



看護副部長着任のご挨拶

看護副部長 徳永 智美

若葉の候、ますますご壮健のこととお喜び申し上げます。

このたび4月1日付けで、看護副部長に着任いたしました徳永智美と申します。



よろしく願いいたします。

関東労災病院に長年勤務し、今回初めての転勤で中部ろうさい病院で勤務することになりました。

当院が急性期病院としての役割を発揮するためには、院内の多職種連携はもちろんのこと、地域の医

療機関の皆様とのつながりが重要です。令和6年度診療報酬改定の基本的視点と具体的方向性では、

ポスト2025を見据えた地域包括ケアシステムの進化・推進などが掲げられ、地域全体で外来・入院・

在宅を含めた医療機能の分化と強化への取り組みが重要とされています。

当院は、入院前から退院後の生活を見据えた退院支援を実施し、地域の皆様が住み慣れた場所で、

治療を継続しながら安心して生活できるよう地域の施設の皆様と連携していきたいと考えています。

そのためにも当院が急性期病院としての役割を更に発揮できるよう、地域のニーズを把握し取り組ん

でいきたいと考えております。

地域住民の方の健康を長年皆様と共に支えてきた、中部ろうさい病院の一

員として精進してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいた

します。



診療科スポットライト

肺がんのロボット支援下手術 名古屋南部地域では当院のみです！

院長補佐（呼吸器外科部長） 中川 誠

【手術支援ロボットの特徴】

手術支援ロボットの多くは4本のアームを持っており、3D内視鏡カメラと3本の鉗子を用いて、執刀医は3Dモニターを見ながら座って操作を行います。ロボットのアームに接続した各種鉗子が執刀医の手の動きを忠実に再現し、手ぶれもしないこ



ロボット支援下手術の様子

とから正確性の高い手術が行えます。ロボット支援下手術は患者側、医師側とも非常にメリットが多いことから（下記）、患者側、医師側いずれにとってもからだへの負担が少ない理想的な手術と言えるかもしれません。

●ロボット支援下手術のメリット

患者側	医師側
・傷口が小さい	・手ぶれがない（鉗子の安定性）
・術後の疼痛が少ない	・鉗子が動かしやすい（自由度が高い）
・手術中の出血量が少ない	・術野が立体的で広く鮮明である（3D画像）
・術後合併症のリスクが少ない	・術野が共有できる
・回復が早い（早期の社会復帰など）	・執刀医の負担が軽減できる（座っての手術）

【呼吸器外科で行うロボット支援下手術の現状】

2018年4月、日本国内でも手術支援ロボットを用いた肺がん手術が保険適応となりました。その後急速に普及し、2022年にはロボット支援下手術が全国で約6500例が実施されました。これは、肺がん手術全体の約15%を占めるほどになっております。当科では2023年7月から肺がんに対するロボット支援下肺葉切除術を開始し、すでに厚生労働省が定めた施設認定基準となる10例を終了しておりますので、現在は保険診療で実施することができます。



サージョンコンソールに座って手術を行う執刀医

【さいごに】

2019年4月に当院呼吸器外科部長として着任し、早いもので5年が経過しました。これまで当科ではモニター視のみの完全胸腔鏡下手術をはじめ、穴が一箇所の単孔式手術などを積極的に行ってまいりました。そして、ついに2023年7月当院に手術支援ロボット「ダヴィンチXi」が導入され、当科でもロボット支援下手術を開始いたしました。港区、熱田区、南区などの名古屋南部地域において、肺がんのロボット支援下手術を行っているのは当院だけですので、ロボット支援下手術にご興味のある先生は当科までお気軽にお問い合わせください。

今後とも中部ろうさい病院呼吸器外科をよろしくお願いたします。

●名古屋市内で肺がんのロボット支援下手術ができる施設

- ①中部ろうさい病院：港区港明
- ②名古屋市立大学病院：瑞穂区瑞穂町
- ③名古屋大学病院：昭和区鶴舞町
- ④西部医療センター：北区平手町
- ⑤中村日赤（第一日赤）：中村区道下町
- ⑥八事日赤（第二日赤）：昭和区妙見町
- ⑦愛知県がんセンター：千種区鹿子殿



私の臨床メモ（専門医による治療紹介）

その8

肺癌の最新治療

呼吸器内科部長 松下 明弘



肺癌は日本人における癌死の第1位であり、発生率は50歳以上で急激に増加することがいわれています。

肺癌の治療には①手術、②放射線治療、③化学療法があり、病期の進行によって治療方法が異なります。早期であれば手術ができ根治を目指せますが、病期が進むにつれ根治が難しくなります。進行性肺癌となると化学療法を行いながら肺癌が大きくならないよう制御し癌と共存して生きていくこととなります。しかし技術の進歩とともに化学療法で使用する抗癌剤の種類は増えており、より長い生存期間が期待できるようになりました。

化学療法には①細胞傷害性抗癌薬、②分子標的治療薬、③免疫チェックポイント阻害薬の3つがあります。肺癌の組織型、ドライバー遺伝子変異/転座の有無、PD-L1 TPSの発現に応じて薬の使用は異なります。特にドライバー遺伝子変異/転座に関しては現在9種類の遺伝子とそれに対応する分子標的治療薬があります。その中でもEGFR遺伝子変異とALK融合遺伝子では従来の細胞傷害性抗癌剤とくらべ有効であることが報告されています。化学療法と聞くと多くの方が副作用を心配されるかと思われませんが、上記の分子標的治療薬は細胞性傷害性抗癌剤とくらべ副作用は少なく使用しやすい薬剤となっております。

また早期の肺癌で手術ができる場合は手術した後に追加の化学療法を行うことがあります。その際にもEGFR遺伝子変異がある場合は分子標的治療薬の使用ができるものもあり、再発の頻度を下げる役割を担っています。

当院では呼吸器センターとして呼吸器内科・呼吸器外科が一丸となって肺癌の治療を行っております。患者さんにとってより良い医療を提供できるよう心掛けておりますので、今後もよろしくお願いたします。

超高速高精度320列 エリアディテクターCTが 導入されました

当院に、今までの概念を超えた超高速高精度CT装置が導入されました。この装置の特徴は、1秒以下で16cm（汎用型CT装置は6cm以下）という広範囲の撮影が可能です。心臓の動きを瞬時に捉えることができ、汎用型CT装置とは別次元の最新鋭のCT装置です。さらに、撮影時間が短くなる分、当然のことながら放射線被ばくや造影剤の使用量も大幅に低減できます。今まで不可能であった機能診断機能や動態診断機能も付加され、心臓循環器検査や脳機能検査における診断能を大幅に向上させます。

このCT装置のもう一つの大きな特徴は、物質弁別
が解析可能となったことです。物質弁別(密度)画像は、
特定の物質を強調、あるいは抑制して画像化すること
ができる機能です。ヨード造影剤成分の強調表示や、
実効原子番号、電子密度などを用いた解析が可能とな
り、画像診断における新たな被写体情報や、高精度な
定量値により、診断や治療計画の精度向上が期待でき
ます。異所性甲状腺の診断や肺のperfusionの評価、
がんの治療効果判定などにも有用です。

CT検査は寝台に楽な姿勢で寝るだけで短時間にリ
ラックスしながら検査を受けられます。心臓冠動脈検
査も通常CT検査同様にC@RNA Connectにてネット
予約も可能となっておりますので是非ご利用ください。



キャノンメディカルシステムズ（社）Aquilion ONE



中央放射線部長（左）とCT部門スタッフ

医師交代

●採用

令和6年3月1日付け

木村 啓佑 (脳神経外科 医師)

令和6年4月1日付け

松山 恭士 (消化器内科 第三部長)

小山 雄一郎 (循環器内科 医師)

大宮 康次郎 (外科 医師)

山口 克弥 (眼科 医師)

奥田 健太郎 (耳鼻咽喉科 医師)

牧野 莉央 (形成外科 医師)

三澤 尚史 (脳神経内科 医師)

渡邊 克典 (麻酔科 医師)

石川 和暉 (呼吸器内科 医師)

伊藤 裕哉 (整形外科 医師)

貴島 夕加里 (リウマチ科 医師)

●退職

令和6年3月31日付け

上條 美樹子 (女性診療科 部長、
脳神経内科 第三部長、
働く女性メディカルセンター副センター長)

長野 美子 (小児科 部長)

安田 彩子 (小児科 第二部長)

渡部 百合子 (産婦人科 第二部長)

村井 由香里 (腎臓内科 副部長)

林 優佑 (糖尿病・内分泌内科 医師)

松島 有希 (呼吸器内科 医師)

高橋 秀昂 (呼吸器内科 医師)

永瀬 宏哉 (腎臓内科 医師)

吉田 有佑 (脳神経内科 医師)

武田 慎一郎 (循環器内科 医師)

川口 直人 (脳神経外科 医師)

関谷 敦史 (産婦人科 医師)

東 翔一郎 (麻酔科 医師)

●補職

令和6年4月1日付け

神原 俊輔 (整形外科 第五部長)

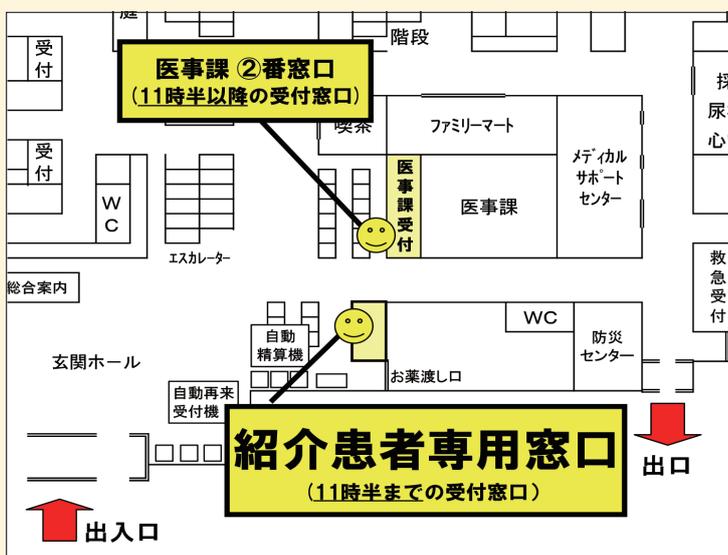


地域医療連携室からのお知らせ

紹介患者さんを専用窓口へご案内ください

紹介患者さんの受付を優先的に行うため、「紹介患者専用窓口」を設置いたしました。

外来が混み合う時間帯につきましては「紹介患者専用窓口」をご利用いただくことで、受付待ち時間が短縮されます。(11時30分以降につきましては、従来通り医事課②番窓口でお手続きをお願いいたします。)



ホスピタルラウンジを再開しました

長らく閉鎖してました正面玄関脇のホスピタルラウンジを4月16日から再開しました。自動販売機、テレビを設置しており、当院をご利用の方はどなたでもお使いいただけます。また、今後がんサロンも整備予定で、情報発信の場としても運用していきます。

メディカルサポートセンター

(平日 8:15~19:30)

(TEL) 052-652-5950

(FAX) 052-652-5716

センター長：篠田 典宏 (院長補佐)

副センター長：鈴木 陽子 (看護副部長)

副センター長：庄山 武 (医事・連携課長)

事務担当：今枝 智子

広報委員長：循環器内科 篠田 典宏

編集担当：整形外科部長 神原 俊輔

医事課員 今枝 智子

皮膚・排泄ケア認定看護師 櫻井 由紀子

